3D0798501C

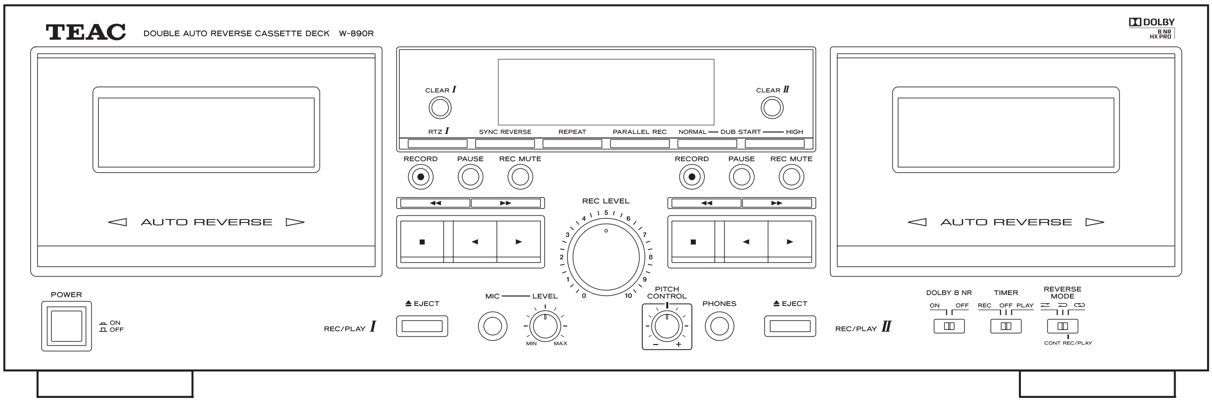
TEAC

取扱説明書

W-890R

ダブルオートリバース カセットデッキ

ティアック製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
ご使用になる前にこの取扱説明書をよくお読みください。
また、お読みになったあとは、いつでも見られるところに大切に保管してください。
末永くご愛用くださいますよう、お願い申し上げます。



ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。

HX Pro ヘッドルームエクステンションは、バングアンドオルフセンの考案です。

Dolby、ドルビー、HX Pro およびダブルD 記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

その他、記載されている会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

目 次

安全にお使いいただくために.......................3

本機でできること.............................6
お使いになる前に.............................7
カセットテープについて.........................8
リモコンの使い方.............................9

各部の名前とはたらき(本体)..................... 10
各部の名前とはたらき(リモコン).................. 12
各部の名前とはたらき(ディスプレー)............... 13

接　続.................................... 14

カセットテープを聴く.......................... 15
連続再生.................................. 17
0000に移動(TAPE I のみ).................... 18
リピート再生............................... 18

カセットテープに録音する...................... 19
マイクミキシング録音.......................... 22
連続録音.................................. 23
パラレル(同時)録音.......................... 24

ダビング.................................. 24
シンクロリバースダビング...................... 26
タイマー再生/録音........................... 27

困ったときは............................... 30

仕　様.................................... 32

保証とアフターサービス........................ 33

安全にお使いいただくために

製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、以下の注意事項をよくお読みください。

⚠警告　以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、火災や感電などによって、死亡や大怪我などの人身事故の原因となります。

電源プラグをコンセントから抜く	**万一、異常が起きたら 煙が出たり、変なにおいや音がするときは。 機器の内部に異物や水などが入ったときは。 この機器を落としたり、キャビネットを破損したときは。** すぐに機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。販売店またはティアック修理センター (裏表紙に記載)に修理をご依頼ください。
強 制	**この機器を設置する場合は、壁から20cm以上の間隔をおく。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置く。 ラックなどに入れるときは、機器の天面から5cm以上、背面から10cm以上のすきまをあける。** すきまをあけないと内部に熱がこもり、火災の原因となります。
禁 止	**電源コードを傷つけない。 電源コードの上に重いものをのせたり、コードを本機の下敷きにしない。 電源コードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしない。** コードが破損すると火災・感電の原因となります。万一、電源コードが傷んだら(芯線の露出、断線など)、販売店またはティアック修理センター (裏表紙に記載)に交換をご依頼ください。
	電源プラグにほこりをためない。 電源プラグとコンセントの間にゴミやほこりが付着すると、火災・感電の原因となります。電源プラグを抜いてから、ゴミやほこりを取り除いてください。
	交流100ボルト以外の電圧で使用しない。 この機器を使用できるのは日本国内のみです。表示された電源電圧(交流100ボルト)以外の電圧で使用しないでください。また、船舶などの直流(DC)電源には接続しないでください。火災・感電の原因となります。
	機器の上に花びんや水などが入った容器を置かない。 内部に水が入ると火災・感電の原因となります。
分解禁止	**この機器のキャビネットは絶対に外さない。** キャビネットを開けたり改造すると、火災・感電の原因となります。内部の点検・修理は販売店またはティアック修理センター (裏表紙に記載)にご依頼ください。
	この機器を改造しない。 火災・感電の原因となります。

次のページに続きます

安全にお使いいただくために(続き)

⚠注意	以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、感電やその他の事故によって、怪我をしたり、周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。
電源プラグをコンセントから抜く	**移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外す。** コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
	旅行などで長期間この機器を使用しないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜く。
	お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜く。 感電の原因となることがあります。
強 制	**オーディオ機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続する。** **また、接続は指定のコードを使用する。** それ以外の物を使用すると故障、火災、感電の原因となります。
	ヘッドホンを使うときは、電源を入れる前に音量を最小にする。 突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。
	この機器はコンセントの近くに設置し、電源プラグに簡単に手が届くようにする。 異常が起きた場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いてください。
禁 止	**ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かない。** **湿気やほこりの多い場所に置かない。風呂、シャワー室では使用しない。** **調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたる場所に置かない。** 火災・感電やけがの原因となることがあります。
	電源コードを熱器具に近付けない。 コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
	濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。 感電の原因となることがあります。
	電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない。 コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。

電池の取り扱いについて

本製品は電池を使用しています。誤って使用すると、発熱、発火、液漏れなどの原因となりますので、以下の注意事項を必ず守ってください。

⚠ 警告	**(乾電池に関する警告)** **以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、火災や感電などによって、死亡や大怪我などの人身事故の原因となります。**
禁止	**乾電池は絶対に充電しない。** 破裂、液もれにより、火災・けがの原因となります。

⚠ 注意	**(電池に関する注意)** **以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、感電やその他の事故によって、怪我をしたり、周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。**
強制	**電池を入れるときは、極性表示(プラス⊕とマイナス⊖の向き)に注意し、電池ケースに表示されているとおりに正しく入れる。** 向きを間違えると破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
強制	**長時間使用しないときは電池を取り出しておく。** 液がもれて火災、けが、周囲を汚損する原因となることがあります。もし液がもれた場合は、電池ケースについた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。また、万一もれた液が身体についたときは、水でよく洗い流してください。
禁止	**指定以外の電池は使用しない。** **新しい電池と古い電池、または種類の違う電池を混ぜて使用しない。** 破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
分解禁止	**金属製の小物類と一緒に携帯、保管しない。** ショートして液もれや破裂などの原因となることがあります。
分解禁止	**分解しない。** 電池内の酸性物質により、皮膚や衣服を損傷する恐れがあります。

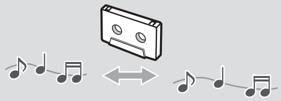
愛情点検	電源ケーブルや本体に異常がないか、定期的に点検してください。 内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。 特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。 5年に1度は、販売店またはティアック修理センター (裏表紙に記載)に内部の点検をご依頼ください。 費用についてはお問い合わせください。

本機でできること

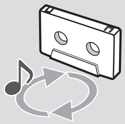
カセットテープの再生

カセットテープを聴く
➡ 15ページ

ピッチ(音程)を変えて聴く
➡ 17ページ



指定した部分を繰返し聴く(リピート再生)
➡ 18ページ

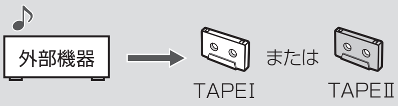


TAPE I とTAPE IIを連続して聴く
➡ 17ページ

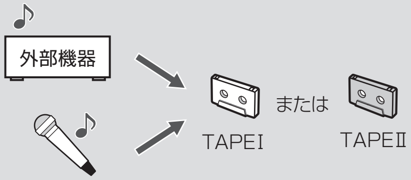
カウンター「0000」の位置に移動して聴く(TAPE I のみ)
➡ 18ページ

カセットテープへの録音

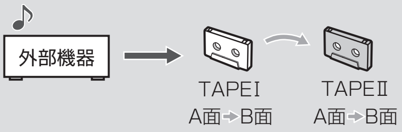
外部機器からカセットテープ(TAPE I またはTAPE II)に録音
➡ 19ページ



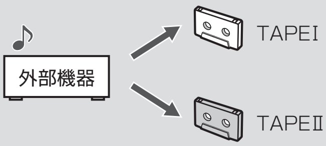
マイクの音声をミキシングして録音
➡ 22ページ



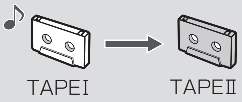
外部機器から2本のカセットテープに連続して録音
➡ 23ページ



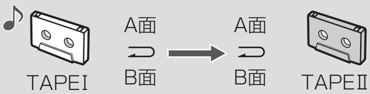
外部機器から2本のカセットテープに同時に録音(パラレル録音)
➡ 24ページ



TAPE I からTAPE IIにダビング(定速/倍速)
➡ 24ページ



A面からB面に切り換わるタイミングを合わせてダビング(シンクロリバース)
➡ 26ページ

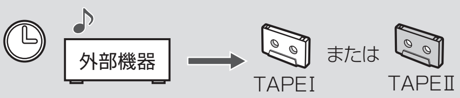


タイマー

市販のタイマーが必要です。

タイマーを使った再生
➡ 28ページ

タイマーを使った録音
➡ 29ページ

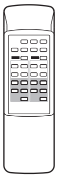


お使いになる前に

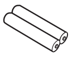
付属品の確認

万一、付属品に不足や損傷がありましたら、お買い上げになった販売店または弊社AVお客様相談室(裏表紙に記載)にご連絡ください。

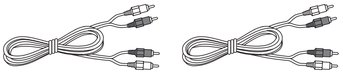
リモコン(RC-1277)×1



リモコン用乾電池(単3)×2



RCAオーディオケーブル×2



取扱説明書(本書)×1

保証書×1

使用上の注意

- 直射日光が当たる場所や暖房器具の近くなど、温度が高くなるところに置かないでください。また、アンプなど熱を発生する機器の上には置かないでください。変色や変形、故障の原因となります。
- テレビ放送の電波状態により、本機の電源を入れたまま近くにあるテレビをつけると画面にしま模様が出る場合がありますが、本機やテレビの故障ではありません。このような場合は本機の電源を切ってください。

⚠ **注 意**

再生や録音などの動作中には、絶対に電源をオフにしたり、電源コードを抜いたりしないでください。
テープ巻込みなどの原因となります。

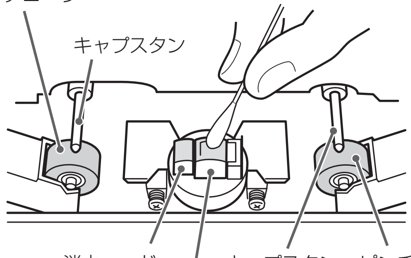
お手入れ

トップカバーやパネル面の汚れは、薄めた中性洗剤を少し含ませた柔らかい布で拭いてください。
化学ぞうきんやシンナーなどで拭かないでください。表面を傷める原因となります。

⚠ **お手入れは安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。**

カセットデッキのクリーニング

クリーニング
ヘッド部が汚れると、録音・再生の音質が悪化したり、音飛びの原因になります。また、テープ走行部の汚れは、テープの巻き込みなどを引き起こすことがあります。
約10時間の使用を目安に、市販のクリーニング液を綿棒に含ませて、ヘッドとピンチローラー、キャプスタンを清掃してください。



- ヘッドのクリーニング液が乾いてから、カセットテープをセットしてください。

カセットテープについて

本機で使用できるカセットテープ

本機で再生できるカセットテープ

ノーマル(タイプⅠ)　クローム(タイプⅡ)
メタル(タイプⅣ)

本機で録音できるカセットテープ

ノーマル(タイプⅠ)　クローム(タイプⅡ)

● 本機のTAPEⅠとTAPEⅡは、別々にテープの種類を検出しますので、種類の異なるカセットを同時に使用することができます。

使用上の注意

● カセットを開けたり、テープを引き出したりしないでください。
● テープに直接手を触れないでください。

保管上の注意

● 磁石や磁気を帯びたものに近付けないでください。雑音が入ったり、録音内容が消えてしまうことがあります。
● ホコリの多い場所に放置しないでください。
● 高温・多湿の場所での保管は避けてください。

使用できないカセットテープ

次のようなカセットテープを使用すると、正常な動作をしないことがあります。テープが巻き込まれるなど思わぬトラブルを起こすこともありますので、使わないでください。

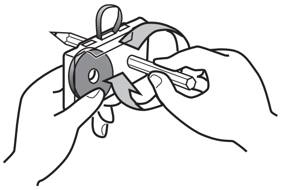
変形したカセットテープなど
カセットが変形していたり、テープの走行が不安定なもの。早送り、巻き戻し中に異音を生ずるもの。

長時間テープ
90分を超えるテープは大変薄くて伸びやすいため、キャプスタンなどに巻き込まれることがあります。本機ではご使用にならないでください。最悪の場合はカセットテープが取り出せなくなります。

エンドレステープ
テープが巻き込まれる恐れがありますので、絶対に使わないでください。最悪の場合はカセットテープが取り出せなくなります。

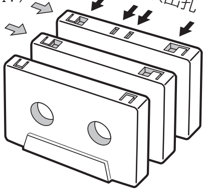
テープの「たるみ」

ご使用の前に、カセットのテープがたるんでいないか確かめてください。
テープがたるんでいると、キャプスタンなどに巻き込まれることがあります。鉛筆などでたるみを巻き取ってから使用してください。



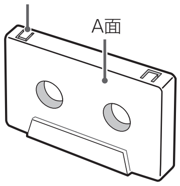
自動検出孔について

本機のカセットデッキはカセットテープの自動検出孔によってテープの種類を自動検出します。自動検出孔のあるカセットテープをお使いください。



誤消去を防止するには

カセットテープには、大切な録音内容を誤って消さないように、誤消去防止用のつめがついています。つめはカセットの両面用にそれぞれあります。
ドライバーの先などで折って取り除くと、誤消去防止装置が働いて録音ができなくなります。



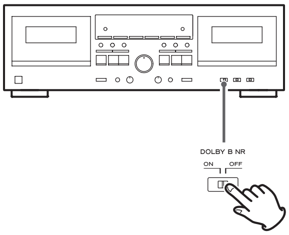
● 再度、録音をしたいときは、つめを取り除いたあとの孔にセロハンテープなどを貼ってふさいでください。その際にテープ自動検出孔はふさがないようご注意ください。

リモコンの使い方

ドルビー NR(ノイズリダクション)システム

ドルビー NRシステムは、再生/録音時に発生する「シー」というテープノイズを低減します。本機はBタイプのドルビー NRシステムを内蔵しています。

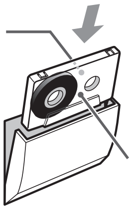
DOLBY B NRスイッチで、ドルビー NRの切換えができます。



● ドルビー NRシステムは録音と再生の両方で効果を発揮しますので、再生するときは録音したときと同じタイプを選んでください。ドルビー NR オンで録音したカセットは、そのことをカセットレーベルにメモしておくことをおすすめします。

カセットテープの面について

この取扱説明書では、手前の面を「A面」、反対側の面を「B面」と呼びます。
「A面」と「B面」を裏返しにセットしたときは、「A面」を「B面」、「B面」を「A面」に読み換えてください。



● 新品のカセットテープは、図のように「向かって左側にテープが巻かれている」面が「A面」になります。

使用上の注意

⚠ **乾電池を誤って使用すると、電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。5ページの注意をよく読んでお使いください。**

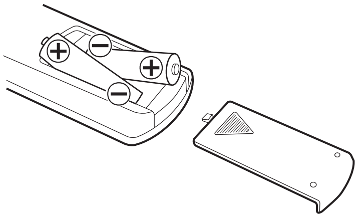
● リモコンの先端を本体のリモコン受光部に向けて、5メートル以内の距離で操作してください。本体とリモコンの間には障害物を置かないでください。

● 本体のリモコン受光部に日光や照明があたると、リモコン操作ができないことがあります。その場合は本機を移動してみてください。

● 本機のリモコンを操作すると、赤外線によりコントロールする他の機器を誤動作させることがありますのでご注意ください。

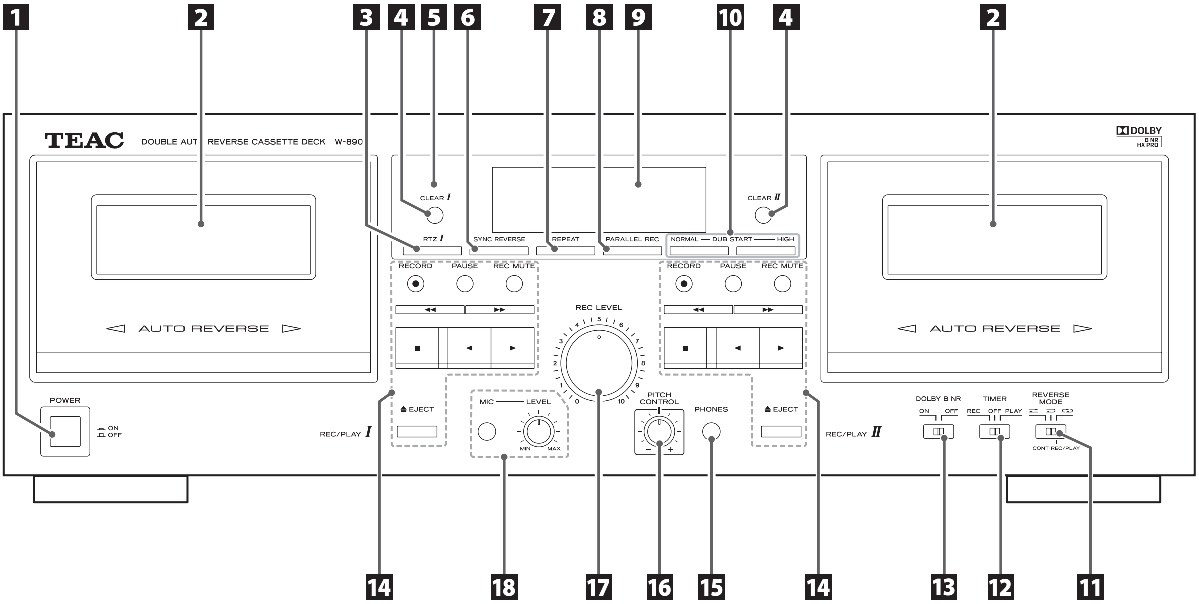
電池の入れ方

リモコン裏面のフタを外し、ケースの⊕と⊖の表示に合わせて乾電池(単3形)2本を入れて、フタを閉めてください。



電池の交換時期

操作範囲が狭くなったり、操作キーを押しても動作しない場合は、2本とも新しい電池に交換してください。使い終わった電池は電池に記載された廃棄方法、もしくは各市町村指定の廃棄方法に従って捨ててください。


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
4
2
TEAC
DOUBLE AUTO REVERSE CASSETTE DECK W-890
DOLBY
B NR
HX PRO
CLEAR I
CLEAR II
RTZ I
SYNC REVERSE
REPEAT
PARALLEL REC
NORMAL — DUB START — HIGH
RECORD
PAUSE
REC MUTE
REC LEVEL
AUTO REVERSE
POWER
ON
OFF
EJECT
MIC — LEVEL
MIN
MAX
PITCH CONTROL
PHONES
REC/PLAY I
REC/PLAY II
DOLBY B NR
ON
OFF
TIMER
REC
OFF
PLAY
REVERSE MODE
CONT REC/PLAY
14
18
17
16
15
14
13
12
11

1 電源ボタン(POWER)

電源のオン/オフを切り換えます。

2 TAPE I/TAPE II カセットホルダー

3 RTZ I ボタン(0000に移動)(TAPE Iのみ)

テープカウンターが「0000」の位置に移動して停止します。(18ページ)

4 TAPE I/TAPE II カウンタークリアボタン(CLEAR I/II)

テープカウンターを「0000」にリセットします。

5 リモコン受光部

リモコンを使用するときは、リモコンの先端をここに向けて操作してください。

6 シンクロリバースボタン(SYNC REVERSE)

シンクロリバースダビング(A面からB面に切り換わるタイミングを合わせるダビング)のオン/オフを切り換えます。(26ページ)

7 リピートボタン(REPEAT)

繰返して聴きたい部分を指定します。(18ページ)

8 パラレル録音ボタン(PARALLEL REC)

TAPE IとTAPE IIへの録音を同時に開始します。(24ページ)

9 ディスプレー

テープカウンターやレベルメーターなどが表示されます。(13ページ)

10 ダビングスタートボタン(DUB START)

TAPE IからTAPE IIへのダビングを開始します。(24ページ)

定速ダビングボタン(NORMAL)
通常の速度でダビングします。

倍速ダビングボタン(HIGH)
2倍の速度でダビングします。

● TAPE IIからTAPE Iへのダビングはできません。

11 リバースモードスイッチ(REVERSE MODE)

リバースモードを切り換えます。
(再生時:15ページ、録音時:19ページ)

12 タイマー設定スイッチ(TIMER)

このスイッチで、タイマーの設定(タイマー再生、タイマー録音、またはタイマーオフ)を選びます。通常はオフにしておいてください。
タイマー再生/録音をするには、市販のオーディオタイマーを本機に接続してください。(27ページ)

13 DOLBY B NRスイッチ

ドルビー NRのオン/オフの切換えをします。(9ページ)

14 TAPE I/TAPE II 操作ボタン

録音ボタン(RECORD ●)
録音をするときに使います。
押すと録音待機状態になります。(19ページ)

一時停止ボタン(PAUSE)
再生/録音を一時停止します。
もう一度押すと再生/録音を再開します。

録音ミュートボタン(REC MUTE)
録音中または録音待機中に、約4秒間の無録音部分を作るときに使用します。(21ページ)

早送り/巻戻しボタン(◀◀/▶▶)
早送り/巻戻しに使います。

停止ボタン(■)
再生/録音/早送り/巻戻しを停止します。

再生ボタン(◀/▶)
それぞれの方向にテープが走行します。
A面を再生/録音するときは▶、B面のときは◀を押してください。
再生/録音の一時停止状態のときに押すと、再生/録音を再開します。

開ボタン(⏏ EJECT)
カセットテープが停止しているときに、カセットホルダーを開きます。

15 ヘッドホン端子(PHONES)

ヘッドホンをお使いになるときは、ヘッドホンプラグをこの端子に差し込んでください。
ヘッドホンプラグを差し込んでも、音声出力端子(LINE OUT)からの音声は出力されます。
● ヘッドホンの音量調整機能はありません。

⚠ **注 意**

ヘッドホンを耳にかけたまま、電源のオン/オフ、またはヘッドホン端子の抜き差しを行わないでください。突然大きな音が出て、聴力障害の原因となることがあります。

16 ピッチコントロールつまみ(PITCH CONTROL)

再生時のピッチ(音程)を調節します。録音時やダビング時には機能しません。(17ページ)

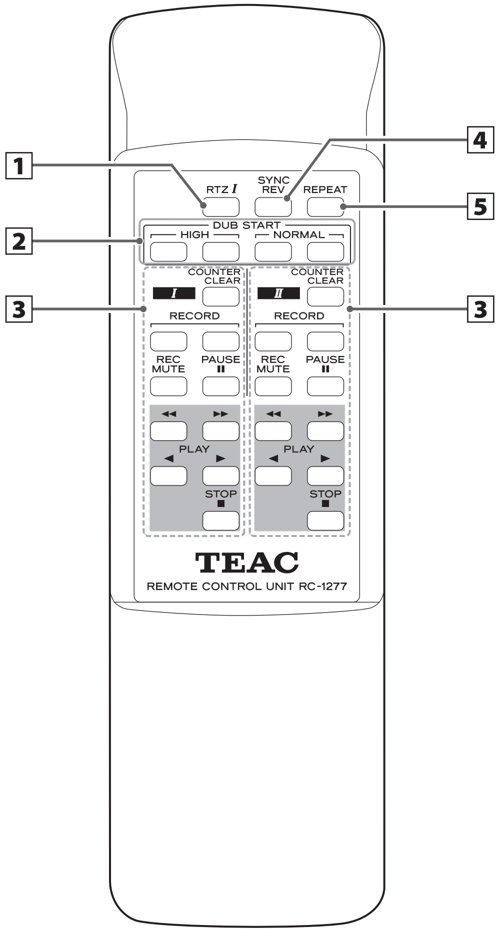
17 録音レベル調節つまみ(REC LEVEL)

録音レベルを調節します。

18 マイク端子(MIC)/マイクレベルつまみ(LEVEL)

マイクを使用して録音する時は、この端子にマイクのプラグを差し込み、つまみを回して適切なレベルに調節してください。(22ページ)
本機はステレオマイクには対応しておりません。
モノラルマイクをお使いください。

各部の名前とはたらき(リモコン)



本体とリモコンに同じ機能のボタンがある場合、この取扱説明書ではいずれかのボタンを使って説明していますが、記載されていない方のボタンも同様に使えます。

1 RTZ I ボタン(0000に移動)(TAPE I のみ)

テープカウンターが「0000」の位置に移動して停止します。(18ページ)

2 ダビングスタートボタン(DUB START)

TAPE I からTAPE II へのダビングを開始します。(24ページ)

定速ダビングボタン(NORMAL)
通常の速度でダビングします。2つのボタンを同時に押してください。

倍速ダビングボタン(HIGH)
2倍の速度でダビングします。2つのボタンを同時に押してください。

● TAPE II からTAPE I へのダビングはできません。

3 TAPE I /TAPE II 操作ボタン

カウンタークリアボタン(COUNTER CLEAR)
テープカウンターを「0000」にリセットします。

録音ボタン(RECORD)
録音をするときに使います。
2つのボタンを同時に押すと、録音待機状態になります。(19ページ)

録音ミュートボタン(REC MUTE)
録音中に押すと、約4秒間の無信号録音が行われます。(21ページ)

一時停止ボタン(PAUSE ❚❚)
再生/録音を一時停止します。
もう一度押すと再生/録音を再開します。

早送り/巻戻しボタン(◀◀ / ▶▶)
早送り/巻戻しに使います。

再生ボタン(◀ / ▶)
それぞれの方向に再生します。
再生/録音の一時停止状態のときに押すと、再生/録音を再開します。

停止ボタン(■)
再生/録音/早送り/巻戻しを停止します。

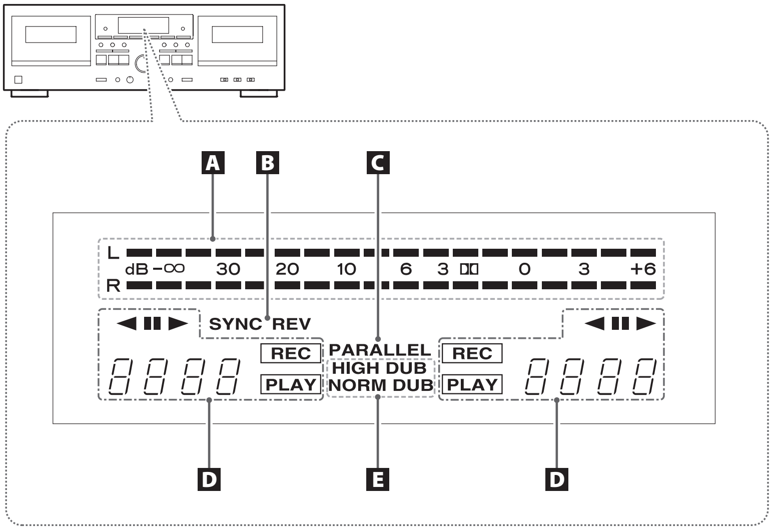
4 シンクロリバースボタン(SYNC REV)

シンクロリバースダビング(A面からB面に切り換わるタイミングを合わせるダビング)のオン/オフを切り換えます。(26ページ)

5 リピートボタン(REPEAT)

繰返して聴きたい部分を指定します。(18ページ)

各部の名前とはたらき(ディスプレー)



A **ピークレベルメーター**

再生/録音中にレベルを表示します。

B **シンクロリバース表示(SYNC REV)**

シンクロリバースダビング(A面からB面に切り換わるタイミングを合わせるダビング)がオンの時に点灯します。(26ページ)

C **パラレル録音表示(PARALLEL)**

TAPE I とTAPE II へのパラレル録音中に点灯します。(24ページ)

D **TAPE I /TAPE II 状態表示**

再生/録音方向表示(◀ / ▶)

再生/録音方向を表示します。A面を再生/録音しているしているときは ▶ 、B面のときは ◀ が表示されます。

一時停止表示(❚❚)

再生/録音の一時停止中に点灯します。

テープカウンター (8888)

テープカウンターを表示します。

カウンタークリアボタン(CLEAR I / II) を押すと「0000」にリセットされます。

リピート再生のときは、「RE 01」、「RE 02」と表示されます。

録音表示(REC)

録音中、または録音待機中に点灯します。

録音ミュート(REC MUTE)中に点滅します。

再生表示(PLAY)

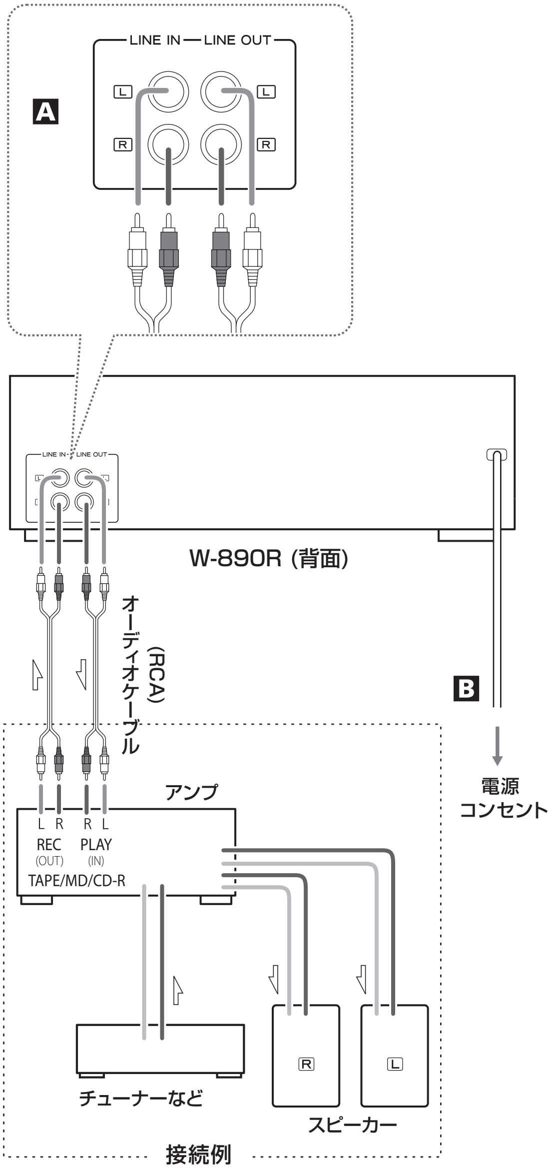
再生中、または録音中に点灯します。

E **ダビング表示**

ダビング中に点灯します。

定速ダビング中は「NORM DUB」、倍速ダビング中は「HIGH DUB」が点灯します。(24ページ)

接 続



⚠ 全ての接続が終わってから電源をオンにしてください。

- 接続する機器の取扱説明書をよく読み、説明に従って接続してください。
- ノイズ発生の原因となるので、各接続ケーブルを電源コードと一緒に束ねないでください。
- 各プラグはしっかりと差し込んでください。

A アナログ音声入出力端子 (LINE IN/LINE OUT)

アナログの音声を入出力します。
付属のRCAオーディオケーブルを使ってアンプなどに接続してください。

白のピンプラグ ➡ 白の(L)端子
赤のピンプラグ ➡ 赤の(R)端子

B 電源コード

全ての接続が終わったら、電源プラグをAC100Vの電源コンセントに差し込んでください。

- 長期間使用しないときは、コンセントから電源プラグを抜いておいてください。

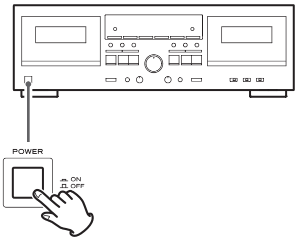
⚠ **注 意**

交流100ボルト以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因になります。また、電源の抜き差しは、必ずプラグを持って行ってください。

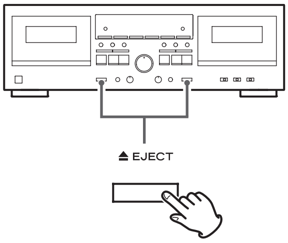
カセットテープを聴く

本機では、ノーマル(タイプ I)、クローム(タイプ II)、またはメタル(タイプ IV)のテープを再生することができます。

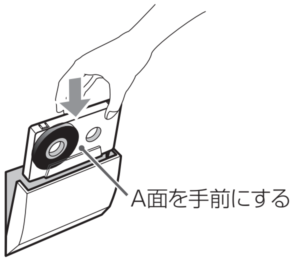
1 電源ボタン(POWER)を押して、電源をオンにする。



2 開ボタン(≜EJECT)を押して、カセットホルダーを開ける。



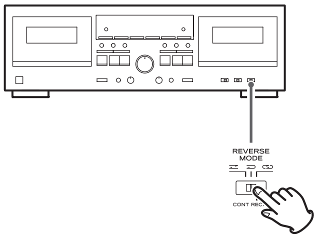
3 カセットを入れる。



テープが露出している部分を下にして入れ、カセットホルダーを手でゆっくり押して閉めてください。無理に押し込むと故障の原因になりますのでご注意ください。

- テープにたるみがないか確認してください。(8ページ)
- 故障の原因になりますので、変形したテープや、たるんだテープを使わないでください。また、カセットホルダーを開けるときは、手で無理やり開けないでください。
- この取扱説明書では、手前の面を「A面」、反対側の面を「B面」と呼びます。
  「A面」と「B面」を裏返しにセットしたときは、「A面」を「B面」、「B面」を「A面」に読み換えてください。

4 リバースモードスイッチ(REVERSE MODE)で、リバースモードを選ぶ。



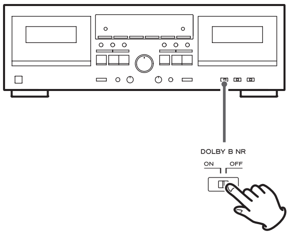
3つのモードから選べます。

片面モード
片面のみの再生をします。

両面モード
両面を連続して再生します。
A面の最後まで再生すると、自動的にリバース(反転)し、引き続きB面を再生します。

リピートモード
両面を最長5回まで連続して再生します。
TAPE I とTAPE II カセットホルダーの両方にカセットが入っていると、TAPE I とTAPE II が連続して再生されます。(17ページ「連続再生」)

5 ドルビー NRのオン/オフを選ぶ。

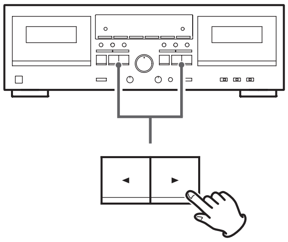


ドルビー NR(Bタイプ)をオンにして録音されたテープを再生するときは、DOLBY(ドルビー) B NRスイッチをオンにしてください。
ドルビー NRを使わずに録音されたテープを再生するときは、オフにしてください。

ドルビー NR(ノイズリダクション)システムについて
ドルビー NRシステムは、再生/録音時に発生する「シー」というテープノイズを低減します。本機はBタイプのドルビー NRシステムを内蔵しています。

次のページに続きます

6 再生ボタン(◀ / ▶)を押して再生を始める。



▶ ボタン

このボタンを押すと、A面の再生が始まります。

リバースモードが ⇌ のとき
A面の最後まで再生し、停止します。

リバースモードが ⊐ のとき
A面に引き続きB面の最後まで再生し、停止します。

リバースモードが ⊂⊃ のとき
両面を5回繰り返し再生し、停止します。
TAPE Ⅰ とTAPE Ⅱ カセットホルダーの両方にカセットが入っていると、TAPE Ⅰ とTAPE Ⅱ が連続して再生されます。(17ページ「連続再生」)

◀ ボタン

このボタンを押すと、B面の再生が始まります。

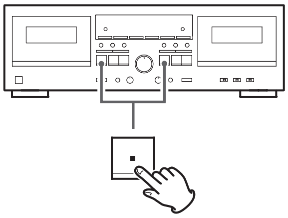
リバースモードが ⇌ 、または ⊐ のとき
B面の最後まで再生し、停止します。

リバースモードが ⊂⊃ のとき
B面を再生した後、両面を4回繰り返し再生し、停止します。
TAPE Ⅰ とTAPE Ⅱ カセットホルダーの両方にカセットが入っていると、TAPE Ⅰ とTAPE Ⅱ が連続して再生されます。(17ページ「連続再生」)

⚠ **注 意**

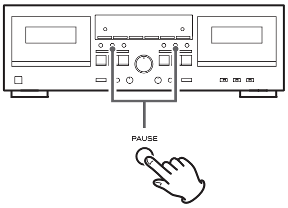
**再生中は、絶対に電源をオフにしたり、電源コードを抜いたりしないでください。
テープ巻込みなどの原因となります。**

再生を停止する



停止ボタン(■)を押すと再生が停止します。

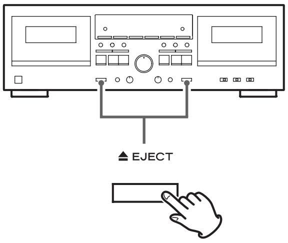
再生を一時停止する



一時停止ボタン(PAUSE ❚❚)を押すと再生が一時停止します。
再び一時停止ボタン(PAUSE ❚❚)を押すか、または再生ボタン(◀ / ▶)を押すと、一時停止したところから再生が再開します。

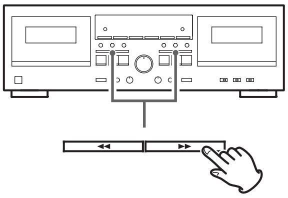
● 一時停止中に、ディスプレーに表示されている現在の再生方向(◀ / ▶)と逆方向の再生ボタン(◀ / ▶)を押すと、テープは一時停止のままで再生方向だけ変わります。

カセットテープの取出し



カセットテープが停止中に、**開ボタン(≜ EJECT)**を押してカセットホルダーを開き、取り出します。

早送り/巻戻しする

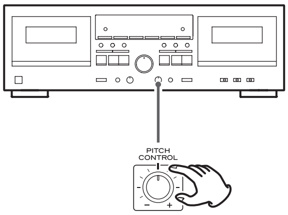


早送りボタン(▶▶)、巻戻しボタン(◀◀)を押します。

テープの最後まで早送り/巻戻しすると、停止します。
途中で止めたいときは、停止ボタン(■)を押します。

ピッチコントロール(TAPE I のみ)

TAPE I の再生時にピッチ(音程)を変えることができます。

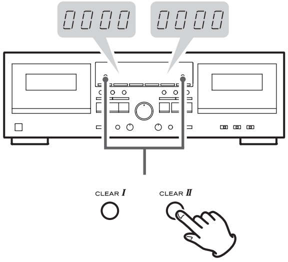


ピッチコントロールつまみ(PITCH CONTROL)を右(+方向)に回すと、テープ走行速度が速くなり音程が上がります。
(最大12%、音程で約1音上がります)

左(−方向)に回すと、テープ走行速度が遅くなり音程が下がります。
(最大12%、音程で約1音下がります)

● 録音時、またはダビング時にはこの機能は働きません。再生時にのみ調節することができます。

テープカウンター



カウンタークリアボタン(CLEAR I/II)を押すとそれぞれのテープカウンターが「0000」にリセットされます。
テープの特定の位置を記憶する場合にお使いください。
また、次のページの「0000に移動」機能(TAPE I のみ)と合わせて使うと便利です。

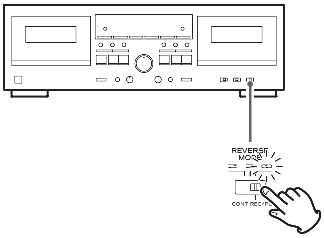
連続再生

TAPE I とTAPE II を連続して再生することができます。

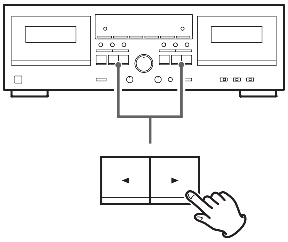
● TAPE I とTAPE II のカセットホルダーに再生するカセットを入れてください。

● DOLBY(ドルビー) B NRスイッチは録音されたときと同じポジションにセットしてください。

1 停止中に、リバースモードスイッチ(REVERSE MODE)で ⊂⊃ を選ぶ



2 再生ボタン(◄/►)を押して再生を始める。



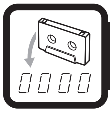
再生は、TAPE I またはTAPE II のA面、B面どちらからでも開始できます。
再生される順序は次のようになります。

TAPE I　A面 ➡ B面
　　　　　⬆　　　⬇
TAPE II　B面 ⬅ A面

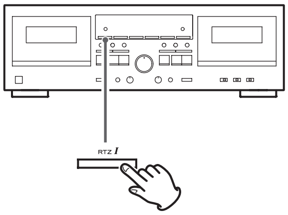
A面から再生を始めたとき
連続5往復再生して停止します。

B面から再生を始めたとき
再生を始めた方のテープのB面を再生した後、連続4往復再生して停止します。

再生

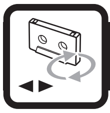


0000に移動(TAPE I のみ)



RTZ I *ボタンを押すと、TAPE I のテープがカウンター「0000」の位置まで早送り/巻戻しされて停止します。

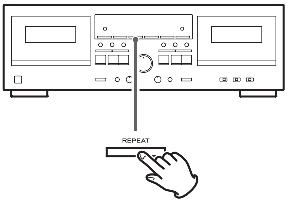
- 「R T Z I」とは、"Return to Zero TAPE Ｉ"の短縮表示です。
- カウンターが「9995」〜「0004」では機能しません。
- この機能はTAPE I でのみ使えます。



リピート再生

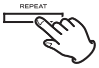
指定した部分を繰り返し聴くことができます。

1 再生中に、開始したいポイントでリピートボタン(REPEAT)を押す。



ディスプレーに、「rE 01」と表示されます。

2 終了したいポイントになったら、もう一度リピートボタン(REPEAT)を押す。



ディスプレーに、「rE 02」と表示されます。

自動的に開始ポイントに巻き戻り、終了ポイントまで再生します。終了ポイントにまで再生すると、再び開始ポイントまで巻き戻り、終了ポイントまで再生を繰り返します。

これを20回まで繰り返し、停止します。

リピート再生を途中で停止するには、停止ボタン(■)を押します。

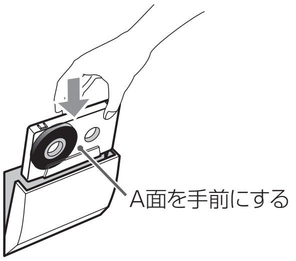
- リピート中は、リピートボタン(REPEAT)と停止ボタン(■)以外のボタンは機能しません。
- 開始ポイントから終了ポイントまでは、テープカウンターで最低10カウント以上必要です。
- 指定できるリピート部分は再生している面のみです。A面とB面にわたって(リバースして)リピートすることはできません。

カセットテープに録音する

本機では、接続した外部入力機器の音声をカセットテープに録音することができます。
ノーマル(タイプ I)、またはクローム(タイプ II)のテープに録音することができます。

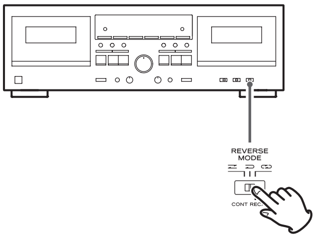
- 本機はメタルテープ(タイプ IV)への録音には対応していません。
- 片面のみの録音、または両面続けて録音することができます。
- ここでは外部機器からTAPE I またはTAPE II への録音を説明しますが、本機には、マイク音声のミキシング録音(22ページ)、TAPE I とTAPE II の連続録音(23ページ)、TAPE I とTAPE II のパラレル(同時)録音(24ページ)の機能もあります。

1 カセットホルダーに録音用のカセットテープを入れる。



- 誤消去防止用のつめが取り除かれている場合、取り除いたあとの孔にセロハンテープなどを貼ってふさいでください。

2 リバースモードスイッチ(REVERSE MODE)で、リバースモードを選ぶ。

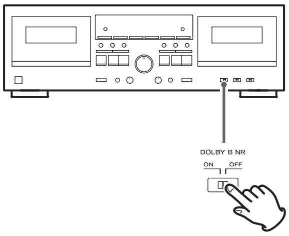


2つのモードから選べます。

⇄ 片面モード
片面のみの録音をします。

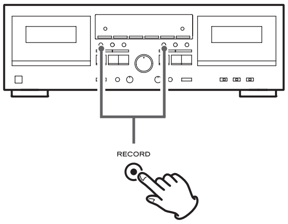
⊃ 両面モード
両面を連続して録音します。
A面の最後まで録音すると、自動的にリバースし、引き続きB面を録音します。

3 ドルビー NRのオン/オフを選ぶ。



ドルビー NRについては、9ページをご覧ください。

4 録音ボタン(RECORD ●)を押して、録音待機状態にする。



ディスプレーに II と REC が点灯します。

- リモコンを使うときは、2つの録音ボタン(RECORD)を同時に押してください。
- 録音待機状態を解除する場合は、停止ボタン(■)を押します。

5 録音レベルを調節する。

録音を行う前には録音レベルを調節してください。適切な録音レベルではない場合、音が歪んだり(レベル大きすぎ)、ノイズが多い(レベル小さすぎ)録音になります。

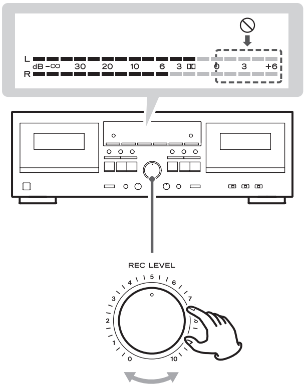
1. 録音ソースを再生する。

   例
   接続したアンプの入力ソースを再生する
   接続したプレーヤーを再生する
   接続したチューナーの選局をする

次のページに続きます

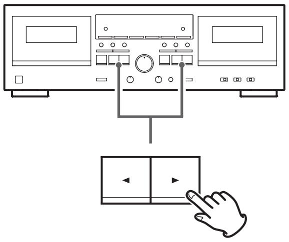
カセットテープに録音する(続き)

2. 録音レベル調節つまみ(REC LEVEL)を使って、最も大きな音のときに、ピークレベルメーターが継続的に「0」を超えないように調節する。



● 録音するソースによっては、音量に差があります。様々なソースを適切な音量で録音するためには、ソース毎に録音レベルの調節が必要です。

6 テープの録音方向を選ぶ。



A面、またはA/B両面に録音する場合

ディスプレーに表示されているテープの方向インジケーターが、 ► になっていることを確認してください。もしも ◄ になっている場合は ► ボタンを押してください。

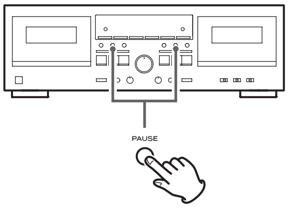
B面に録音する場合

ディスプレーに表示されているテープの方向インジケーターが、 ◄ になっていることを確認してください。もしも ► になっている場合は ◄ ボタンを押してください。

● このとき、ディスプレーに表示されている方向インジケーターと同じ方向のボタンを誤って押すと、意図しない方向で録音が始まってしまいますのでご注意ください。

録音したい方向のインジケーターが表示されている場合は、**7** に進んでください。

7 録音を始める。



接続した機器で録音ソースを再生し、本機の一時停止ボタン(PAUSE ❚❚)を押して、録音を開始します。

ディスプレーの ❚❚ が消え、REC と PLAY が点灯します。

⚠ 注 意

録音中は、絶対に電源をオフにしたり、電源コードを抜いたりしないでください。
テープ巻込みなどの原因となります。

録音を一時停止する

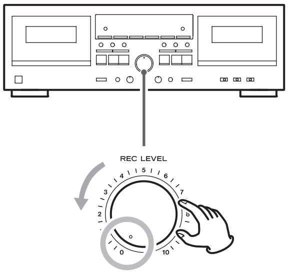
一時停止ボタン(PAUSE ❚❚)を押します。
もう一度押すと録音を再開します。

録音を停止する

停止ボタン(■)を押します。

● ソースの再生が終わっても、録音は自動的に停止しません。

録音済みのテープを消去する

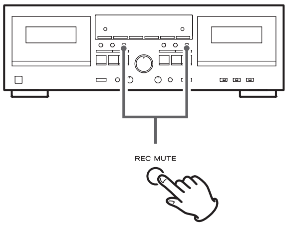


録音レベルを最小(0)にして上書き録音をすることによって、録音内容を消去することができます。

録音レベル調節つまみ(REC LEVEL)を0に合わせてから、録音の手順(19ページ)に従って録音してください。
（**5** の録音レベルの調節はスキップしてください。また録音ソースは必要ありません）

無録音部分をつくる(REC MUTE)

不要な部分を消去したり、曲間にスペースを入れながら録音することができます。



録音中または録音待機中に**録音ミュートボタン(REC MUTE)**を押すと、約4秒間の無録音部分を作り、録音待機状態になります。

4秒より長い時間を無音にしたいとき
録音ミュートボタン(REC MUTE)を押し続けます。
押している間は無録音部分が作られ、指を離すと録音待機状態になります。

4秒より短い時間を無音にしたいとき
録音ミュートボタン(REC MUTE)を押してから、3秒以内に一時停止ボタン(PAUSE ❚❚)を押します。
そこで無信号録音が終了し、録音待機状態になります。

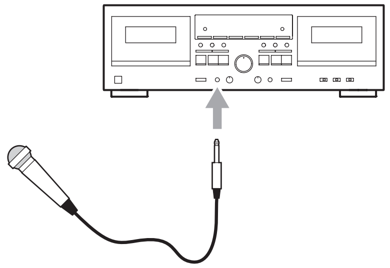
一時停止ボタン(PAUSE ❚❚)を押すと、録音を再開します。

● 録音ミュート中は、ディスプレーの REC が点滅します。

マイクミキシング録音

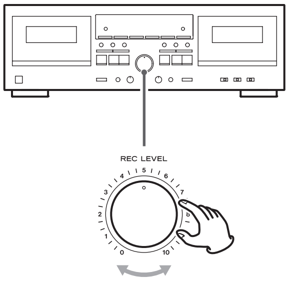
外部接続した機器からのソースに、本機に接続したマイクの音をミキシングして録音することができます。
マイクの音のみ録音することもできます。

本機はステレオマイクには対応しておりません。
モノラルマイクをお使いください。



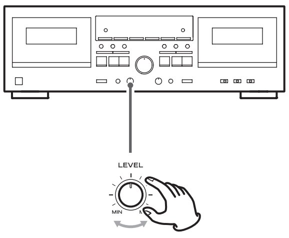
フロントパネルのマイク端子(MIC)にマイクのプラグを接続し、録音の手順(19ページ)に従って録音してください。
録音の手順 **5** の録音レベルの調節では、以下のようにソースとマイクの両方のレベルを調節してください。

1. ソースのレベルを調節する



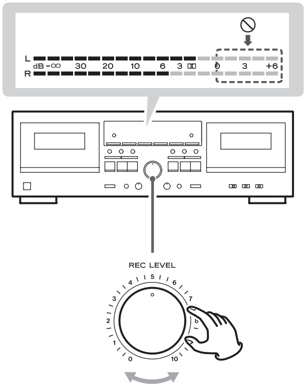
ソースを再生し、録音レベル調節つまみ(REC LEVEL)で録音レベルを少し低めに調節します。

2. マイクのレベルを調節する



マイクの音を出しながら、マイクレベル調節つまみ(MIC LEVEL)で、ソースとマイクの音のバランスを調節します。

3. 全体のレベルを調節する



ソースを再生し、マイクの音を出しながら、録音レベル調節つまみ(REC LEVEL)で最も大きな音のときに、ピークレベルメーターが継続的に「0」を超えないように調節します。

調整が終わったら、20ページの録音の手順 **6** に進んでください。

- 録音するソースによっては、音量に差があります。様々なソースを適切な音量で録音するためには、ソース毎に録音レベルの調節が必要です。
- マイクの音は左右同じレベルで分配され、中央に定位します。
- ソースは、アナログ音声入力端子(LINE IN)に接続したアンプで選択するか、アナログ音声入力端子(LINE IN)に直接接続してください。(14ページ)
- TAPE Ⅰの音とマイクの音をミックスしてTAPE Ⅱに録音することはできません。また、TAPE Ⅱの音とマイクの音をミックスしてTAPE Ⅰに録音することもできません。
- マイクの録音時は、ハウリング*を防止するためにヘッドホンでモニターされることをお勧めします。もしもスピーカーを使ってモニターする場合は、スピーカーの音量を下げたり、マイクをスピーカーに近づけないよう十分配慮してください。

  *ハウリングとは
  スピーカーから出た音がマイクに帰還して発振する現象。「ピー」という大きな音が出るため、場合によりスピーカーを破損することがある。

- マイクミキシング録音中でも録音ミュート(21ページ)ができます。

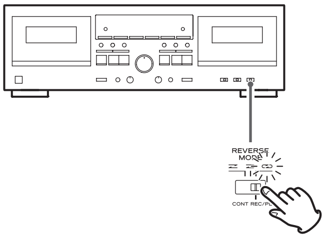
連続録音

外部接続した機器からのソースを、TAPE I とTAPE II に連続して録音することができます。

1 TAPE I カセットホルダーとTAPE II カセットホルダーの両方に録音用のカセットを入れる。

- 誤消去防止用のつめが取り除かれている場合、取り除いたあとの孔にセロハンテープなどを貼ってふさいでください。
- A面を手前にしてセットしてください。

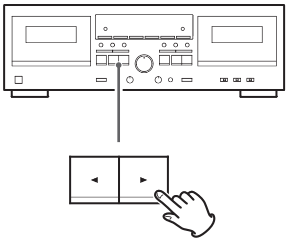
2 リバースモードスイッチ(REVERSE MODE)で ⊂⊃ を選ぶ



3 19～20ページの録音の手順 3 ～ 5 に従ってドルビー NRや録音レベルの調節を行う。

4 テープの録音開始方向を選ぶ。

録音を始める面は、TAPE I のA面、またはB面です。



A面から録音する場合

ディスプレーに表示されているテープの方向インジケーターが、 ► になっていることを確認してください。もしも ◄ になっている場合は ► ボタンを押してください。

B面から録音する場合

ディスプレーに表示されているテープの方向インジケーターが、 ◄ になっていることを確認してください。もしも ► になっている場合は ◄ ボタンを押してください。

- このとき、ディスプレーに表示されている方向インジケーターと同じ方向のボタンを誤って押すと、意図しない方向で録音が始まってしまいますのでご注意ください。

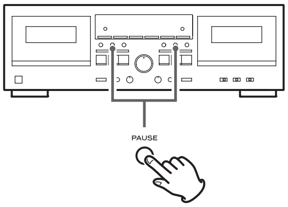
録音したい方向のインジケーターが表示されている場合は、 5 に進んでください。

録音される順序は次のようになります。	
TAPE I	A面
	↓
	B面
	↓
TAPE II	A面
	↓
	B面

TAPE I のB面から録音を始めた場合は、B面が終わるとTAPE II のA面の録音が始まります。

- TAPE II の録音はテープの録音方向に関係なく、必ずA面から始まります。

5 接続した機器で録音ソースを再生し、TAPE I の一時停止ボタン(PAUSE II)を押して、録音を始める。



ディスプレーの II が消え、 REC と PLAY が点灯します。

⚠ **注 意**

録音中は、絶対に電源をオフにしたり、電源コードを抜いたりしないでください。
テープ巻込みなどの原因となります。

録音を一時停止する

一時停止ボタン(PAUSE II)を押します。
もう一度押すと録音を再開します。

録音を停止する

停止ボタン(■)を押します。

- ソースの再生が終わっても、録音は自動的に停止しません。
- TAPE I B面の録音が終わり、TAPE II のA面の録音へ切り替わるときには数秒かかります。
- 連続録音中でも録音ミュート(21ページ)ができます。

パラレル(同時)録音

外部接続した機器からのソースを、２本のカセットに同時(パラレル)に録音することができます。

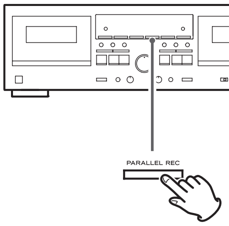
1 **TAPE Ⅰ カセットホルダーとTAPE Ⅱ カセットホルダーの両方に録音用のカセットを入れる。**

● 誤消去防止用のつめが取り除かれている場合、取り除いたあとの孔にセロハンテープなどを貼ってふさいでください。

2 **19〜20ページの録音の手順の 2 〜 6 に従って録音のセッティングをする。**

3 **TAPE Ⅰ の停止ボタン(■)を押して、一旦録音待機状態を解除する。**

4 **パラレル録音ボタン(PARALLEL REC)を押して、録音を始める。**



ディスプレーに **PARALLEL** が点灯します。

● 一時停止状態になっているとパラレル録音が開始されません。停止状態にしてから開始してください。

● パラレル録音中でも、TAPE Ⅱ の録音ミュートボタン(REC MUTE)を使って無音録音(21ページ)ができます。(TAPE Ⅰ の録音ミュートボタン(REC MUTE)は使えません)

パラレル録音を一時停止する

TAPE Ⅱ の一時停止ボタン(PAUSE ❚❚)を押します。もう一度押すとパラレル録音を再開します。

パラレル録音を停止する

TAPE Ⅰ かTAPE Ⅱ の停止ボタン(■)を押します。

● ソースの再生が終わっても、録音は自動的に停止しません。

ダビング

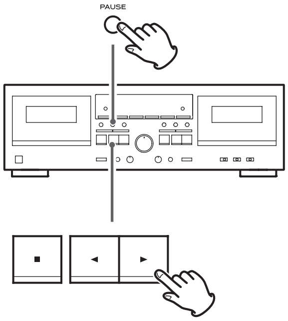
TAPE Ⅰ からTAPE Ⅱ へのダビングができます。

1 **TAPE Ⅰ カセットホルダーに再生用、TAPE Ⅱ カセットホルダーに録音用のカセットを入れる。**

2 **TAPE Ⅰ の再生方向を選ぶ。**

ディスプレーに表示されているTAPE Ⅰ の方向インジケーター(◀/▶)が再生したい方向と**逆になっている場合**は、次の手順で方向を変えてください。

再生したい方向のインジケーターが表示されている場合は、3 に進んでください。



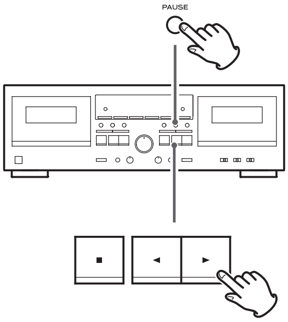
1. TAPE Ⅰ の一時停止ボタン(PAUSE ❚❚)を押して、一時停止状態にする。
2. 録音したい方向のTAPE Ⅰ の再生ボタン(◀/▶)を押して録音方向を変える。
3. TAPE Ⅰ の停止ボタン(■)を押して、一時停止状態を解除する。

● 必要に応じて、リバースモードスイッチ(REVERSE MODE)でリバースモード(⇄:片面モード、または ⊃:両面モード)を選んでください。(15ページ)

3 **TAPE Ⅱ の録音方向を選ぶ。**

ディスプレーに表示されているTAPE Ⅱ の方向インジケーター(◀/▶)が録音したい方向と**逆になっている場合**は、次の手順で方向を変えてください。

録音したい方向のインジケーターが表示されている場合は、4 に進んでください。

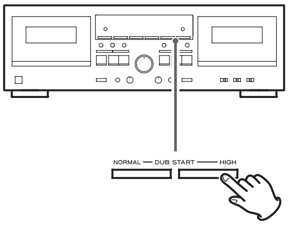


1. TAPE Ⅱの一時停止ボタン(PAUSE ❚❚)を押して、一時停止状態にする。
2. 録音したい方向のTAPE Ⅱの再生ボタン(◀/▶)を押して録音方向を変える。
3. TAPE Ⅱの停止ボタン(■)を押して、一時停止状態を解除する。

● 必要に応じて、リバースモードスイッチ(REVERSE MODE)でリバースモード(⇄:片面モード、または ⊃:両面モード)を選んでください。(19ページ)

● ドルビー NRの選択、録音レベルの調節は必要ありません。

4 ダビングスタートボタン(DUB START)を押して、ダビングを開始する。



定速ダビングボタン(NORMAL)
通常の速度でダビングします。
定速ダビング中はディスプレーに NORM DUB が点灯します。

倍速ダビングボタン(HIGH)
2倍の速度でダビングします。
倍速ダビング中はディスプレーに HIGH DUB が点灯します。

● リモコンを使うときは、それぞれの2つのダビングボタン(NORMAL または HIGH)を同時に押してください。

● 早送りまたは巻戻しでテープの最後まで巻かれた直後は、ダビングスタートボタン(DUB START)を押しても開始しません。5秒以上経ってから操作してください。

TAPE Ⅰの再生が終わると、ダビングは自動的に停止します。

ダビングを一時停止する
定速ダビング中にTAPE Ⅱの一時停止ボタン(PAUSE ❚❚)を押します。一時停止中は、TAPE Ⅰは再生を続けますが、TAPE Ⅱは録音しません。
もう一度押すとダビングを再開します。
倍速ダビング中に一時停止はできません。

ダビングを途中停止する
TAPE ⅠかTAPE Ⅱの停止ボタン(■)を押します。

● 定速ダビング中に、TAPE Ⅱの録音ミュートボタン(REC MUTE)を使って無音録音(21ページ)ができます。(TAPE Ⅰの録音ミュートボタン(REC MUTE)は使えません)
不要な部分を消去したり、曲間にスペースを入れながらダビングすることができます。
倍速ダビング中は録音ミュート機能が働きません。

● ダビング中はピッチコントロール機能が働きません。

● ダビングでは録音レベルの調節はできません。

● テレビなどの近くで倍速ダビングをすると、テレビの水平発振周波数が録音されてしまうことがあります。このような場合は、定速ダビングにするか、テレビの電源を切ってください。

シンクロリバースダビング

A面からB面に切り換わるタイミングを合わせてダビングすることができます。

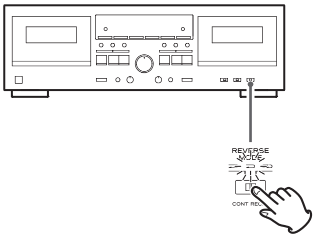
テープの長さが異なる場合、短い方はA面の終わりで一時停止し、長い方のテープのA面が終わるまで待ってから、B面の再生/録音を同時に開始します。

TAPE I (再生用)の方が長い場合
TAPE I のA面/B面の終わりの方(TAPE II の長さが足りない分)はダビングされません。

TAPE IIの(録音用)方が長い場合
TAPE I の終了後、A面/B面の終わりの方(TAPE II の長さが余った分)は無信号録音になります。

1 TAPE I カセットホルダーに再生用、TAPE II カセットホルダーに録音用のカセットを入れる。

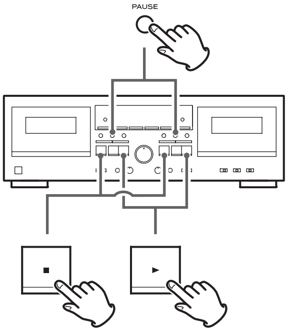
2 リバースモードスイッチ(REVERSE MODE)で ⊃ を選ぶ



3 TAPE I とTAPE II の再生/録音方向を▶にする。

ディスプレーに表示されているTAPE I /TAPE II の方向インジケーターが ◀ **になっている場合**は、次の手順で方向を変えてください。

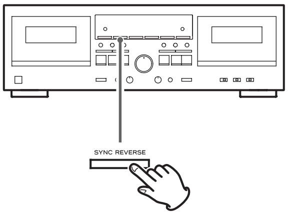
TAPE I /TAPE II の両方とも ▶ のインジケーターが表示されている場合は、**4** に進んでください。



1. 一時停止ボタン(PAUSE ❚❚)を押して、一時停止状態にする。
2. 再生ボタン(▶)を押して録音方向を変える。
3. 停止ボタン(■)を押して、一時停止状態を解除する。

● ドルビー NRの選択、録音レベルの調節は必要ありません。

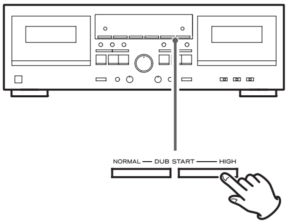
4 シンクロリバースボタン(SYNC REVERSE)を押す。



ディスプレーに **SYNC REV** が点灯し、シンクロリバースモードになります。

● リバースモードが ⇄ または ⊂⊃ になっているとき、TAPE I とTAPE II のテープ再生/録音方向が ◀ になっているときは、シンクロリバースモードになりません。

5 ダビングスタートボタン(DUB START)を押して、ダビングを開始する。



定速ダビングボタン(NORMAL)
通常の速度でダビングします。
定速ダビング中はディスプレーに NORM DUB が点灯します。

倍速ダビングボタン(HIGH)
2倍の速度でダビングします。
倍速ダビング中はディスプレーに HIGH DUB が点灯します。

- リモコンを使うときは、それぞれの2つのダビングボタン(NORMAL または HIGH)を同時に押してください。

- 早送りまたは巻戻しでテープの最後まで巻かれた直後は、ダビングスタートボタン(DUB START)を押しても開始しません。5秒以上経ってから操作してください。

TAPE Ⅰの再生が終わると、ダビングは自動的に停止します。

ダビングを一時停止する
定速ダビング中にTAPE Ⅱの一時停止ボタン(PAUSE ❚❚)を押します。一時停止中は、TAPE Ⅰは再生を続けますが、TAPE Ⅱは録音しません。
もう一度押すとダビングを再開します。
倍速ダビング中に一時停止はできません。

ダビングを途中停止する
TAPE ⅠかTAPE Ⅱの停止ボタン(■)を押します。

- 定速ダビング中に、TAPE Ⅱの録音ミュートボタン(REC MUTE)を使って無音録音(21ページ)ができます。(TAPE Ⅰの録音ミュートボタン(REC MUTE)は使えません)
不要な部分を消去したり、曲間にスペースを入れながらダビングすることができます。
倍速ダビング中は録音ミュート機能が働きません。

- ダビング中はピッチコントロール機能が働きません。

- ダビングでは録音レベルの調節はできません。

- テレビなどの近くで倍速ダビングをすると、テレビの水平発振周波数が録音されてしまうことがあります。このような場合は、定速ダビングにするか、テレビの電源を切ってください。

タイマー再生/録音

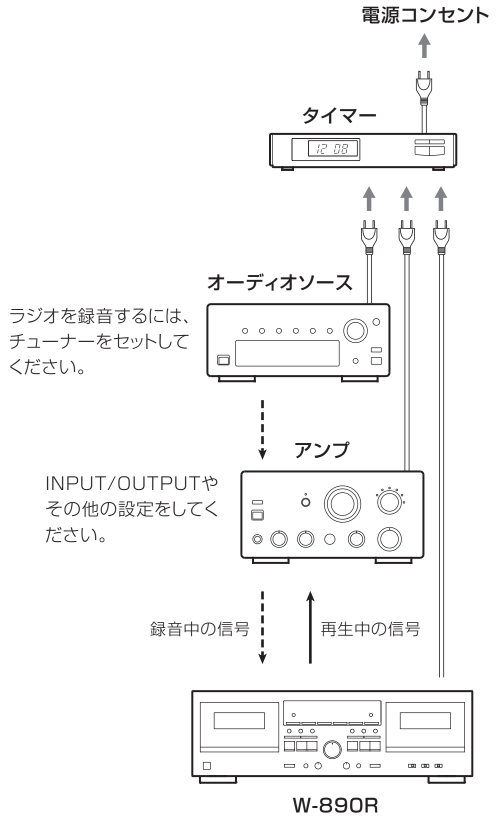
市販のオーディオタイマーを接続して、設定した時間に再生や録音を開始することができます。

- タイマー再生では、本機にセットしたカセットテープのみ再生することができます。外部接続機器をタイマー再生することはできません。

- タイマー録音のソースは、タイマー動作可能な外部接続機器のみです。(ラジオ放送のタイマー録音など)
タイマーでTAPE ⅠからTAPE Ⅱへのダビングはできません。

接 続

下図を参考に、機器を接続してください。



⚠ **全ての接続が終わってから電源をオンにしてください。**

- **接続する機器の取扱説明書をよく読み、説明に従って接続してください。**
- **ノイズ発生の原因となるので、各接続ケーブルを電源コードと一緒に束ねないでください。**

ダビング
タイマー

タイマー再生

● タイマー再生では、本機にセットしたカセットテープのみ再生することができます。外部接続機器をタイマー再生することはできません。

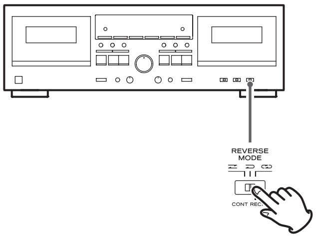
1 前のページの接続図を参考にして、W-890Rとその他の機器を市販のオーディオタイマーに接続する。

2 全ての機器の電源をオンにする。

3 タイマー再生したいカセットを入れて、リバースモードとDOLBY(ドルビー) NRの設定をする。

リバースモード

再生は常にA面から始まります。



⇄ にセットした場合
A面のみの再生をします。

● TAPE I とTAPE II の両方にカセットが入っているときは、TAPE I のA面の再生をして停止します。
TAPE II のカセットのみが入っているときは、TAPE II のA面の再生をします。

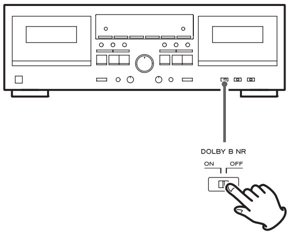
⊃ にセットした場合
両面を連続して再生します。
A面の最後まで再生すると、自動的にリバースし、引き続きB面を再生します。

● TAPE I とTAPE II の両方にカセットが入っているときは、TAPE I の両面の再生をして停止します。
TAPE II のカセットのみが入っているときは、TAPE II の両面の再生をします。

⊂⊃ にセットした場合
両面を最長5回まで連続して再生します。

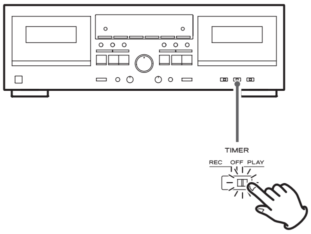
● TAPE I とTAPE II の両方にカセットが入っているときは、TAPE I とTAPE II が連続して再生されます。(17ページ「連続再生」)

DOLBY(ドルビー) NR



ドルビー NRについては、9ページをご覧ください。

4 タイマー設定スイッチ(TIMER)を「PLAY」にセットする。



6 オーディオタイマーのオン/オフの時間を設定する。

設定を終了したら、タイマーからの電源供給を全てオフにしてください。

このとき、W-890Rの電源ボタン(POWER)を押さないでください。
ボタンは押されたままの状態(オンの位置)のままにしておいてください。オフの状態になっていると、タイマー再生は動作しません。

タイマーオンの時間になると、接続した機器にタイマーから電源が供給され、再生が始まります。

● タイマーを使わないときは、タイマー設定スイッチ(TIMER)をOFF(オフ)にセットしてください。

タイマー録音

● タイマー録音のソースは、タイマー動作可能な外部接続機器のみです。(ラジオ放送のタイマー録音など)
タイマーでTAPE Ⅰ からTAPE Ⅱ へのダビングはできません。

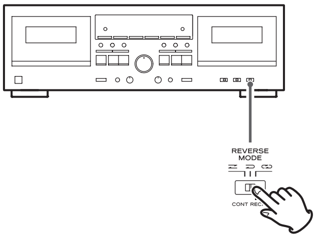
1 **前のページの接続図を参考にして、W-890Rと機器を市販のオーディオタイマーに接続する。**

2 **全ての機器の電源をオンにする。**

3 **タイマーで録音したいカセットテープをセット入れて、リバースモードとDOLBY NRの設定をする。**

リバースモード

録音は常にA面から始まります。



⇄ にセットした場合
A面のみに録音します。

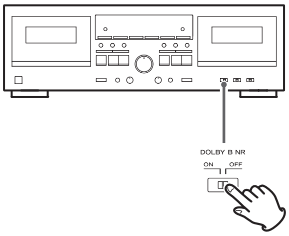
● TAPE Ⅰ とTAPE Ⅱ の両方にカセットが入っているときは、TAPE Ⅰ のA面に録音して停止します。
TAPE Ⅱ のカセットのみが入っているときは、TAPE Ⅱ のA面に録音します。

⊃ にセットした場合
両面に連続して録音します。
A面の最後まで録音すると、自動的にリバースし、引き続きB面に録音します。

● TAPE Ⅰ とTAPE Ⅱ の両方にカセットが入っているときは、TAPE Ⅰ の両面に録音して停止します。
TAPE Ⅱ のカセットのみが入っているときは、TAPE Ⅱ の両面に録音します。

⊂⊃ にセットした場合(連続録音)
TAPE Ⅰ とTAPE Ⅱ 一の両方にカセットを入れてください。TAPE Ⅰ とTAPE Ⅱ に連続して録音されます。
(23ページ「連続録音」)

DOLBY NR



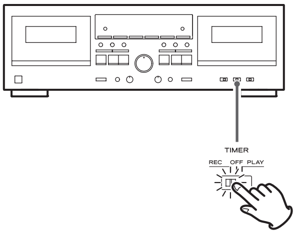
ドルビー NRについては、9ページをご覧ください。

● 消去防止用のつめが取り除かれている場合、取り除いたあとの孔にセロハンテープなどを貼ってふさいでください。

● ノーマル(タイプ Ⅰ)、またはクローム(タイプ Ⅱ)のテープに録音することができます。

ご注意
前回の使用の時、テープがB面の途中で終わっていると、録音はA面の途中から始まってしまいます。大切な録音を誤って消してしまわないようご注意ください。**特に、2回以上連続してタイマー録音する場合にご注意ください。**

4 **タイマー設定スイッチ(TIMER)を「REC」にセットする。**



5 **(ラジオ放送の録音の場合)**
録音したい放送局を選局する。

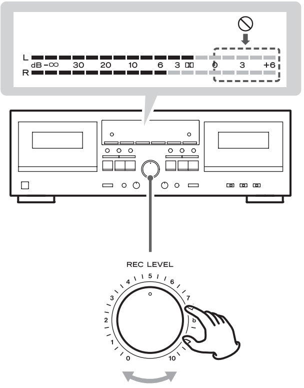
次のページに続きます

タイマー再生/録音(続き)

6 録音レベルを調節する。

録音を行う前には録音レベルを調節してください。適切な録音レベルではない場合、音が歪んだり(レベル大きすぎ)、ノイズが多い(レベル小さすぎ)録音になります。

1. 録音ソースを再生する。
2. 録音レベル調節つまみ(REC LEVEL)を使って、最も大きな音のときに、ピークレベルメーターが継続的に「0」を超えないように調節する。



- 録音するソースによっては、音量に差があります。様々なソースを適切な音量で録音するためには、ソース毎に録音レベルの調節が必要です。

7 オーディオタイマーのオン/オフの時間を設定する。

設定を終了したら、タイマーからの電源供給を全てオフにしてください。

このとき、W-890Rの電源ボタン(POWER)を押さないでください。
ボタンは押されたままの状態(オンの位置)のままにしておいてください。オフの状態になっていると、タイマー録音は動作しません。

タイマーオンの時間になると、接続した機器にタイマーから電源が供給され、録音が始まります。

- タイマーを使わないときは、大切なカセットテープに誤って上書き録音しないように、必ずタイマー設定スイッチ(TIMER)をOFF(オフ)の位置にしておいてください。

困ったときは

本機の調子がおかしいときは、サービスを依頼される前に以下の内容をもう一度チェックしてください。また、本機以外の原因も考えられます。接続した機器の使用方法も合わせてご確認ください。
それでも正常に動作しない場合は、お買い上げの販売店またはティアック修理センター(裏表紙に記載)にご連絡ください。

電源が入らない。
➡ 電源プラグをコンセントに差し込んでください。差し込みが不完全ではないかを確認してください。

電源を入れると、再生/録音が始まってしまう。
➡ タイマー設定スイッチ(TIMER)を「OFF」にしてください。

リモコンで操作できない。
➡ 電源ボタン(POWER)を押して、本体の電源をオンにしてください。
➡ 電池が消耗していたら、新しい電池に交換してください。
➡ リモコンは本体の正面から5メートル以内の距離で、本体の方を向けて操作してください。
➡ 本体とリモコンの間に障害物があると操作できませんので、位置を調整してください。
➡ 本体の近くに強い光の照明がある場合は、照明を切ってください。

リモコンを使うと近くのテレビなどが誤動作する。
➡ ワイヤレスリモコン機能を持つテレビの一部には、本機のリモコン操作により誤動作することがあります。その場合は本体のボタンをお使いください。

ボタンを押しても反応しない。
➡ 動作中は、ボタンを押しても反応しないことがあります。しばらく待ってから再度ボタンを押してください。
➡ カセットが入っていない場合はカセットを入れてください。
➡ カセットを正しく挿入してください。

音が出ない。または小さな音しか出ない。
➡ アンプとの接続を確認してください。
➡ スピーカーや他の機器との接続を確認してください。
➡ 接続した機器の操作が正しいか確認してください。
➡ スピーカーケーブルの ⊕/⊖ がショートしていないか確認してください。

雑音がする。

➡ テレビや電子レンジなど、電磁波を出すものからはできるだけ離して設置してください。

カセットホルダーが閉まらない。

➡ カセットテープが正しくセットされていないと閉まりません。正しく入れ直してください。

音質が悪い。

➡ ヘッドをクリーニングしてください。(7ページ)

➡ ヘッドが帯磁している場合は、ヘッド・イレーサーで消磁してください。

➡ DOLBY(ドルビー) B NRスイッチが、録音したときと同じ位置にあるか確認してください。

再生スピードが速い/遅い。

➡ ピッチコントロールの設定を確認してください。(17ページ)

オートリバースしない。

➡ リバースモードを ⊐ または ⊂⊃ にセットしてください。

➡ リバースモードが ⊐ に設定されているときは、A面から再生してください。

録音できない。

➡ 消去防止用のつめが取り除かれている場合、取り除いたあとの孔にセロハンテープなどを貼ってふさいでください。

➡ 録音レベルを確認してください。(19ページ **5**)

➡ アンプやソース機器との接続を確認してください。

➡ アンプのセレクターが適切な設定になっているか確認してください。

連続再生/録音できない。

➡ リバースモードを ⊂⊃ にセットしてください。

➡ TAPE I とTAPE II の両方にカセットを入れてください。

➡ 連続録音は、TAPE I から開始してください。TAPE IIのボタンを押しても開始しません。

シンクロリバースダビングできない。

➡ リバースモードを ⊐ にセットしてください。

➡ TAPE I とTAPE II の両方にカセットを入れてください。

➡ TAPE I とTAPE II の両方とも、テープ再生/録音方向を ▶ にセットしてください。

倍速ダビングをすると雑音が入る。

➡ テレビなどの近くで倍速ダビングをすると、テレビの水平発振周波数が録音されてしまうことがあります。このような場合は、定速ダビングにするか、テレビの電源を切ってください。

タイマー再生/録音が始まらない。

➡ タイマー再生の場合は、タイマー設定スイッチ(TIMER)を「PLAY」にしてください。
タイマー録音の場合は、タイマー設定スイッチ(TIMER)を「REC」にしてください。

➡ 電源ボタン(POWER)を押して、本体の電源をオンの状態にしておいてください。

➡ タイマー再生/録音の設定が終わったら、タイマーからの電源供給がオフになるようにしてください。(タイマーからの電源供給がオンになると、W-890Rは動作します)

本機はマイコンを使用しておりますので、外部からの雑音やノイズ等によって正常な動作をしなくなることがあります。このような場合は一旦電源プラグをコンセントから抜き、しばらくしてから再び電源を入れて操作しなおしてください。

仕　様

カセットレコーダー部

トラック形式 . . . . 4トラック2チャンネル・ステレオ
ヘッド構成 . . . . 録音再生ヘッド (TAPE Ⅰ/TAPE Ⅱ 各1)
消去ヘッド (TAPE Ⅰ/TAPE Ⅱ 各1)
テープ速度 . . . . .4.8 センチ/秒
9.5センチ/秒(倍速ダビング時)
ピッチコントロール . . . . ±12%
早巻き時間 C-60テープで約160秒
ワウ・フラッター . . . . 0.25% (WRMS)
周波数特性
メタルテープ(タイプⅣ、再生のみ) 30 ～ 19,000Hz
クロームテープ(タイプⅡ) 30 ～ 18,000Hz
ノーマルテープ(タイプⅠ) 30 ～ 17,000Hz
総合S/N比 . . . . 58dB(NRオフ、規定録音レベル)
69dB(ドルビー B NRオンCCIR-ARM)
ライン入力端子(RCA)：
100mV(入力インピーダンス50kΩ)
マイク入力端子(モノラル標準ジャック)：
0.38mV(入力インピーダンス200kΩ)
ライン出力端子(RCA)：
0.46V(負荷インピーダンス50kΩ以上)
ヘッドホン出力端子(ステレオ標準ジャック)：
2mW (32Ω)

一般

電源 . . . . .100V AC、50-60Hz
消費電力. 15W
外形寸法(幅×高さ×奥行、突起部を含む)
435 x 145 x 286mm
質量 4.3kg

付属品

リモコン(RC-1277)	×1
リモコン用乾電池(単3形)	×2
RCAオーディオケーブル	×2
取扱説明書(本書)	×1
保証書	×1

● 仕様及び外観は改善のため予告なく変更することがあります。

● 取扱説明書のイラストが一部製品と異なる場合があります。

保証とアフターサービス(よくお読みください)

■保証書

この製品には保証書が添付されています。保証書は、お買い上げの際に販売店が「お買上げ日・販売店名」等を記入した上でお渡し致します。記入事項及び記載内容をご確認の上、大切に保管してください。保証期間はお買い上げ日から一年です。

■補修用性能部品の保有期間

当社は、この製品の補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)を製造打ち切り後6年間保有しています。

■ご不明な点や修理に関するご相談は

修理に関するご相談、並びにご不明な点は、お買い上げの販売店または弊社AVお客様相談室(裏表紙に記載)にお問い合わせください。

■修理を依頼されるときは

30ページの「困ったときは」に従って調べていただき、なお異常のあるときは使用を中止し、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店またはティアック修理センター (裏表紙に記載)にご連絡ください。

なお、本体の故障もしくは不具合により発生した付随的損害(録音内容などの補償)の責についてはご容赦ください。

保証期間中は

修理に際しましては保証書をご提示ください。

保証書の規定に従って、修理させていただきます。

保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

修理料金の仕組み

技術料：故障した製品を正常に修復するための料金です。測定機等の設備費、技術者の人件費、技術教育費が含まれています。

部品代：修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

その他：製品を送るために必要な送料/梱包料などがあります。

修理の際ご連絡いただきたい内容

型名：ダブルオートリバース カセットデッキ W-890R

シリアルナンバー：

お買い上げ日：

販売店名：

お客様のご連絡先

故障の状況(できるだけ詳しく)

■廃棄するときは

本機を廃棄する場合に必要になる収集費などの費用は、お客様のご負担になります。

分解・改造禁止

この機器は絶対に分解・改造しないでください。

この機器に対して、当社指定のサービス機関以外による修理や改造が行われた場合は、保証期間内であっても保証対象外となります。

当社指定のサービス機関以外による修理や改造によってこの機器が故障または損傷したり、人的・物的損害が生じても、当社は一切の責任を負いません。

音のエチケット

楽しい音楽も、場合によっては大変気になるものです。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまうことがあります。

適当な音量を心がけ、窓を閉めたりヘッドホンを使用するなどして、快適な生活環境を守りましょう。

このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

ティアック株式会社
〒206-8530　東京都多摩市落合1-47　http://www.teac.co.jp/

この製品のお取り扱い等に関するお問い合わせは

AVお客様相談室までご連絡ください。お問い合わせ受付時間は、
土・日・祝日・弊社休業日を除く9:30～12:00/13:00～17:00です。

AVお客様相談室

市内通話料でOK ナビダイヤル **0570-000-701**
一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

〒206-8530　東京都多摩市落合1-47
電話：042-356-9235 / FAX：042-356-9242

故障・修理や保守についてのお問い合わせは

ティアック修理センターまでご連絡ください。
お問い合わせ受付時間は、土・日・祝日・弊社休業日を除く9:30～17:00です。

ティアック修理センター

市内通話料でOK ナビダイヤル **0570-000-501**
一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

〒358-0026　埼玉県入間市小谷田858
電話：04-2901-1033 / FAX：04-2901-1036

- ナビダイヤルは全国どこからお掛けになっても市内通話料金でご利用いただけます。PHS・IP電話などからはナビダイヤルをご利用いただけませんので、通常の電話番号にお掛けください。
- 新電電各社をお使いの場合はナビダイヤルをご利用いただけないことがあります。その場合はご契約されている新電電各社へお問い合わせいただくか、通常の電話番号にお掛けください。
- 住所や電話番号は、予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

0112·MA-1676C